

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 5	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Different degrees of malnutrition and immunological alterations according to the aetiology of cirrhosis: a prospective and sequential study 肝硬変の病因による栄養失調と免疫変化の差の程度：将来的研究と継続的研究	
執筆者 Caly WR, Strauss E, Carrilho FJ, Laudanna AA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Nutr J. 2003 ;2(1):10	
キーワード 免疫、肝炎、アルコール	
要 旨 本研究では免疫不全と栄養失調がアルコール性肝硬変ウィルス性肝硬変とどの様に関連するかについて調べてた。3つの要因(アルコール性、C型肝炎ウィルス(HCV)、アルコール+HCV)による77人の肝炎患者と32人の対照健常人を対象とした。体液性免疫(免疫グロブリンA, M, G, Eと補体成分3、4)や細胞性免疫(末梢血液の全白血球とリンパ球、Tリンパ球CD4+, CD8+, CD4+/CD8+比と遅延して起こる高感受性皮内テスト)のパラメーター、栄養的パラメーターとして血清アルブミン、トランスフェリンについて測定した。 その結果、HCVグループにおいてIgMが高くなっていた。IgGはHCVとHCV+アルコールグループの両方で有意に上昇していた。一方、アルコールグループではIgEが高くなっていた。Tリンパ球では病因の違いによる差は観察されなかったが、遅延高感受性を調べる皮内テストではアルコールグループでアネルギーの頻度が高くなっていた。身体パラメーターでアルコール+HCVグループは上腕三頭筋の皮下脂肪が最も低く、creatinine-high indec (CHI)はHCVグループでより保持されていた。Body mass index, 腕の筋肉量、腕の脂肪量はアルコールグループで異なっていたがHCVグループではコントロールと類似していた。 以上の結果から免疫変化や栄養状態に関連した肝硬変の主な病因の間で観察される差はHCVが原因となるものは免疫状態は悪いが栄養状態はよく、一方、アルコールが原因のものはその逆であることが示唆された。	